

# 益田+景観

Masuda PLUS+ Keikan



【金谷城山桜】

暖かい春の陽気に包まれ、花々が咲き始めた益田市。

「益田+景観」春号では、「平成 23 年度景観ワークショップ第 3 回」を特集しています。歴史的市街地を訪ねた第 3 回は、平成 23 年度ワークショップの最終回となります。

【風情ある歴史的まちなみ】では、萬福寺周辺に残る古い建物や遺構、また、美しい水の流れる益田川流域などの見所ポイントを掲載しています。

【平成 23 年度まちづくり景観賞決定】では、2012 年 2 月に行われた益田市景観シンポジウムの様子と景観賞受賞団体を紹介しています。

歴史溢れる益田市の風情ある風景をどうぞご覧下さい。

## CONTENTS

### 【特集】歴史的市街地を歩く

平成 23 年度益田市景観ワークショップ ..... p. 2

風情ある歴史的まちなみ ..... p. 3

平成 23 年度まちづくり景観賞決定 ..... p. 4

- \*まちづくり景観賞グランプリ 「金谷自治体」
- \*まちづくり景観賞準グランプリ 地域活性化グループ「一滴水」
- \*まちづくり景観賞準グランプリ 「ひとまるの里 小野ボランティア会」
- \*選考委員特別賞 「益田東高等学校美術部」

（ますだ  
景観）  
きんだい

この情報誌は近畿大学建築学部都市計画研究室が作成しています。平成 21 年度から大阪の学生が益田に訪れていますが、益田の人々にとって当たり前の風景も、近畿大学の学生である私たちにとっては、特別な素晴らしい風景なのです。益田景観に対して取り組みを行なう市民の方々や、私たちがこれまでに取り組んできた活動の紹介、益田で感じた魅力を情報誌に収めています。

# 【特集】

## 歴史的市街地を歩く

平成二十三年度  
益田市景観ワークショップ第三回



ワークショップ第三回の対象地は萬福寺周辺地区。この地に伝わる歴史を感じながら、魅力探しのまち歩きに出かけました。益田について考え、まちを更に深く知るところを続けてきたワークショップ。最終回の様子をお伝えします。

### まちを歩く

まずは、班に分かれて萬福寺を出発。まちの魅力や課題点を見つけながら、まちを歩きました。気になるポイントは写真に収め、気付いた点は、参加者同士で共有しながら歩を進めました。道中には、萬福寺へ続く参道、三宅御土居跡、暁音寺などがあり、その周辺に佇む古い町屋や、萬福寺の側を流れる益田川にも目を向け、じっくりとまちを歩きました。

### グループ ディスカッション

まち歩きを終え、趣のある萬福寺の庫裏にてグループディスカッションを行いました。まず、まち歩き中に見つけたものを振り返り、萬福寺周辺にある魅力や課題を整理しました。次に、まちの魅力をどう活かすか、又、発見した課題をどう改善していくかについての提案を考えました。具体的には、案内板の内容を整えるなど、「情報発信の方法を考える」、雑然とした印象のまちなみに統一感を持たせ

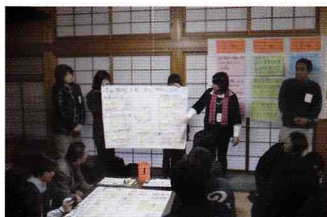
るため、「まちなみルールを制定する」、益田川や小川をもっと身近にするため、「親水空間を整備する」といった提案が出されました。その後、それぞれの班でまとめた提案を会場全体に向けて発表しました。

### ワークショップを終えて

萬福寺を始め多くの寺院や遺構が残るこの地域は、歴史ゾーンと名付けられており、歴史を活かしたまちなみについて考える必要があります。ワークショップでは、歴史を感じる風景、水を感じる風景、人々が集う活気あるまちの風景の創出に関する提案などが出されました。また、行政、住民、外部からの訪問者等、どのような立場でも景観のためにできることがあるということも明確になりました。一人からでも、数人からでも景観を考えたまちづくりは行えます。皆さんも一度、歴史薫る益田のまちなみについて考えてみてはいかがでしょうか。



テーブルディスカッションの様子



最後の全体発表の様子

#### 第三回益田市景観ワークショップ

【日時】平成二十三年十二月十八日（日）

【参加者】三十一名（十学生十名）

【会場】萬福寺庫裏

この景観  
の特徴って  
何 だろう？

# 風情ある歴史的まちなみ

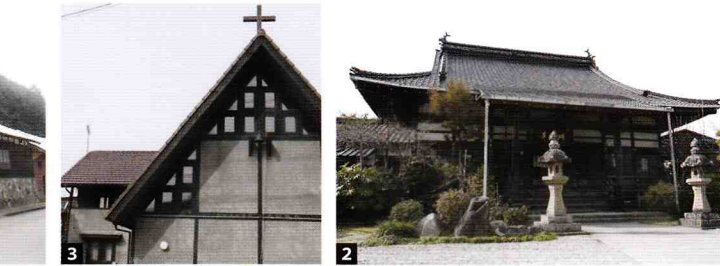
益田には、歴史のある建築物やまちなみが数多く存在しています。そこには今までその地に関わってきた多くの人たちの知恵や工夫が詰まっています。現代を生きる我々は、先人たちの想いを汲み取り、今後のまちづくり活かしに活かしていく必要があるのではないのでしょうか。今回はその一部を紹介いたします。

## 核となる建築物

歴史ある建築物は、長年に渡り存在し、多くの人に愛され続けてきました。そのまちの人にとつてそれは親しみ深いものであり、そのまちの象徴とも成りえます。また寺社仏閣

の周辺のまちなみは、その建物を中心としてまちが形成されてきた過程もあり、そのようなまちなみをどのように残していくかが、今後の課題になります。

歴史や文化はそのまちの個性をつくり出しています。他のまちには無い、そのまちらしさを守っていくための工夫を考えましょう。



## 自然との調和

歴史的なまちなみは、自然を取り込みながら建てられているものが多く見られます。建物が建ち並ぶ通りから正面に見える城址の山、建物に寄り添うように流れる川、自然の存在はまちに彩りを与えてくれます。

また歴史的な建築物には木材や土、石などの自然素材が使用されており、それが自然との見事な調和を生み出しています。

### 1 萬福寺

簡素な鎌倉様式の本堂は、屋根の反りが美しい。

### 2 順念寺

古色蒼然とした存在感のある寺院。

### 3 日本基督教団益田教会

まちなかにひっそりと佇む小さな教会。

### 4 秦記念館

石垣、板張り壁、赤瓦が山の縁にマッチしている。

### 5 戸田柿本神社の赤瓦

龍を象った特徴的な赤瓦。繊細なデザインが目印。



平成 23 年度  
第 3 回益田市景観ワークショップ

## 歴史的市街地の 景観要素

### 古い建物



大通りから一步中へ入ると古い建物が点在している。

### 資料館



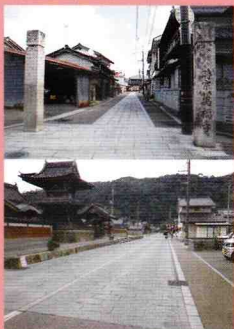
- ①文化財が景観の核となっている
- ②山と川との風景に馴染む外観

### 川



益田川の土手では季節ごとに草花が咲く風景が見られる。

### 通り参道



歴史的に主要な社寺がに面する通りやお寺への参道には、石畳による舗装が行われている。

### 水路



- ①水路に沿って、家が建ち並んでいる風景
- ②川に近づきたくなる石垣の階段
- ③土蔵と水路がある風景

### 樹木

まち並みにアクセントを与える大木



# 平成二十三年年度

## まちづくり景観賞決定

### 景観シンポジウム開催!

平成二十四年二月十一日、島根県芸術文化センターグラントワ小ホールにて、景観シンポジウムが行われました。

益田市は、平成二十二年度から市の豊かな自然や風土、長年培われてきた伝統や歴史、文化等を礎とした特色ある景観を美化・保全し、次世代に伝承する活動を選考し、「まちづくり景観賞」として表彰しています。

今年度はまちづくり景観賞候補として、二十九件の応募がありました。シンポジウム当日は、応募団体の中から二回の選考を経て選ばれた入賞十団体が、活動についてのプレゼンテーションを行い、その後、会場全体で投票し、十名の選考委員とともに

に選考を行いました。

その結果、平成二十三年度のまちづくり景観賞グランプリは「金谷自治会」が受賞。また、「ひとまろの里小野ボランティア会」、「地域活性化グループ一滴水」の二団体がまちづくり景観賞準グランプリに輝き、昨年度準グランプリの「益田東高等学校美術部」が選考委員特別賞に選ばれました。

各団体の活動内容についてご紹介します。

#### まちづくり景観賞グランプリ

##### 金谷自治会

昔から地域に咲いていた金谷桜が病気になることをきっかけに、地元の人が桜の存在の大きさに改めて

気付き、桜を守る活動に携わるようになりました。桜の状態が回復してからは、「歴史ある桜を守る」ことに加え、美都の柚子などの地域特産物も守り、地域外へも情報を発信するなど、この小さな集落の魅力を伝えようと活動しています。

金谷自治会を含めた三団体が主体となって開催している「さくら祭り」は、例年七百人ほどの参加があり、多くは広島・山口からいらっしやるそうです。

金谷集落は、三世帯五人の一般的に限界集落と呼ばれる集落で、高齢化により活動の継続に対する不安もありますが、今は、他地域の人の手を借りながら、受け継いできた集落を守り続けています。

#### まちづくり景観賞準グランプリ

##### 地域活性化グループ一滴水

益田地区には、文化的資産が多い一方、地域に活力がないように感じていた「一滴水」のみなさんは、この地域を盛り上げるべく、活動を始めました。河川敷ライトアップ、寺社巡り、酒造を会場とした「ふるさと落語の会」の開催、「ふるさと益田新発見マップ」の配布、「近代日本夜明けの街宣言活動」などを行い、忘れ去られていく文化財、ふるさとの価値、益田の良さを発信しています。便利が優先される中で失われてしまいがちな文化財を保存し、昔のまちなみ景観の保全をしたいと考えています。

#### まちづくり景観賞準グランプリ

##### ひとまろの里

##### 小野ボランティア会

日頃活動する中で、小野に住みながら小野を知らないという人が多いいことを感じ、地域の史跡などをまとめたガイドブック「小野探訪」を制作しました。

子どもを含めた地域全体へ、地域の良いところを伝えることで、「二度益田から出ても、将来的に懐かしさを糧に戻ってきてほしい」という思いから、ガイドブック作りはスタートしました。地域全戸ほか、地区振興センター、地域外の希望者に配布し、市立図書館にも納書しています。

#### 選考委員特別賞

##### 益田東高等学校美術部

平成十九年より「古の里」益田を描く活動をしています。昨年景観賞準グランプリを受賞したこときっかけに、描くことに対する意義を深め、活動範囲を益田地区だけでなく、市全体に広げて取り組みました。「古の里」を描き、益田東美術展などで多くの方に鑑賞して頂くことにより、絵を通して多くの美しい景観が残されていることを伝え、自分たちの学びの地に、より深い愛着を感じているそうです。



1. 授賞式の様子。2. 会場では、団体に対する投票が行われた。3. 客席の様子。多くの観客の前で各団体がプレゼンを行った。

## 最後に...

「益田+景観」をご愛読いただき、ありがとうございます。これまで、春夏秋冬の計4号を発行させていただきました。毎号特集してきたワークショップに関する記事は、みなで良い景観を見つけ、守り、伸ばす方法の一つとして紹介しました。また、実際にどんなものが景観を形作っているのか、各号異なるテーマに沿って具体的に紹介してきました。「景観を支える人達」の紹介では、益田でよく知られている様々な景観の裏話や、景観を愛する人達の想いをお伝えしてきました。

観光地ではなく、大きな見所がないように思える地域でも、必ず地域毎に特徴的な景観があります。この情報誌で紹介した景観に似た風景が、きっと皆さんの身近にもあると思います。景観を作ってきた人々の想いを再発見することが、「ますだらしい」景観を継承していく第一歩になります。この情報誌が、みなさんの「景観を知って楽しむきっかけ」になることを祈っています。

近畿大学 都市計画研究室

### (発行)

益田市建設部都市デザイン課

〒698-8650 島根県益田市常盤町 1-1

TEL : 0856-31-0351

FAX : 0856-31-1480

http://www.city.masuda.lg.jp

### (制作)

近畿大学 都市計画研究室

〒577-8502 大阪府東大阪市小若江 3-4-1

http://urbankindai.blog84.fc2.com/

平成24年度も近畿大学都市計画研究室は、益田の景観事業のお手伝いをさせていただきます!!  
今年度も情報誌を発行します。様々な景観についての情報を発信していきますので、お楽しみに!